

六甲蓬萊峡の自然を歩く

日時:2012年4月13日(金)10:30~14:45 天気 曇

場所:六甲 蓬萊峡座頭谷~船坂 (行程図参照)

参加:環境科 40名(内体験者1名)

蓬萊峡は、六甲山の裏側(北側)を有馬高槻一構造線に沿って西から東へまっすぐ流れる大多田川の上流部にあり、風化した花崗岩が鋸歯状の鋭い岩峰の稜線を見せる峡谷です。断層破碎帯にあたり、地質学では「バッドランド(悪地)」と呼ばれています。六甲山ではもろい花崗岩のため土石流災害が頻発し、現在500以上の砂防ダムがありますが、ここは兵庫県砂防事業発祥の地です。六甲山の自然と防災を考えながらハイキングしました。

1. 蓬萊峡座頭谷

宝塚からバスで10分、「知るべ岩」へ。入念に準備運動後、座頭谷川へ出発。座頭谷には20を越す砂防堰堤があり、これから何度か小さな流れを渡る。歩き出してすぐに最初の堰堤が見えてきた。鎧積みと呼ばれる工法で自然石を積み上げた堰堤は、昭和13年の大水害にもしっかり耐え、周りの自然に溶け込んでとても美しかった。11日に降った雨のせいか結構流量もある。林の中に入ると、遠くにサクラやタムシバが曇り空にボーッとかすんで見える。ヤシャブシの新葉も目に鮮やかだ。



入念に準備運動



蓬萊峡堰堤(万里の長城)



美しい鎧積堰堤



兵庫県砂防事業発祥の地



4段堰堤



座頭谷の土砂を受止める最後の堰堤

4 番目の堰堤を渡る頃から、砂防ダムという役割がしっかり納得できるほど、ごろごろとした花崗岩が転がる川原に、砂が多く混じるようになった。周囲は荒々しい切り立った岩で、表六甲の緑豊かな登山道からは想像できない景色。手で触れただけで岩はぼろぼろと崩れてしまう



座頭谷を遡る



屹立する巨岩・奇岩(トア)



座頭谷源頭で集合写真

2. 船坂

12時に昼食、心配した急な登りも何とかこなし、船坂の集落へ入った。

船坂新聞の編集長池田さんの案内で、集落内の田畑や茅葺きの古民家を見て回る。

のどかな田園風景も、高級パセリの産地も信州に追われ、寒天の栽培も温暖化によってできなくなり貸し農園や兼業農家がほとんどとなっている現状。現代アートによる村おこし「船坂ビエンナーレ」が2年に1度開催され、今年も10月20日から村中が国内外のアートで溢れるそうだ。H22年に廃校になった船坂小学校で地域の皆さんにコーヒーをご馳走になり、帰途に着いた。



船坂の風景:段々畑と棚田



学生による古民家再生



H22年に138年の歴史の幕を閉じた船坂小学校、給食室でコーヒーをいただく

久しぶりに本格的な(?)登山と、それに続く山里散策、どこか懐かしい小学校でのティータイム、とてもステキな1日でした。(奥野記)

写真・編集 平山

- 付属 1. 説明書
- 2. 行程図

六甲蓬莱峡の自然を歩く

2012. 4. 3 環境科 平山

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の西側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

太多田川(おただがわ) 有馬街道が川筋を通り、交通の難所で「四十八ヶ瀬」とか「四十八飛び」といわれていた。「うたたび(転び)川」から「太多田川」となったともいわれる。船坂集落を源流として全長約 5km。

有馬街道 尼崎神崎から小浜宿、生瀬宿を経て太多田川沿いに有馬温泉に至る古道。豊臣秀吉が何度か通ったことで知られる。

有馬高槻構造線 有馬から太多田川沿い、宝塚市、池田市の山麓を走り、高槻市に至る大きな活断層、阪神淡路大震災では動かなかった。この断層を境に南側は六甲花崗岩層、北側は有馬層群である。

有馬層群と花崗岩 見られる所は、武庫川渓谷兩岸、有馬付近の山地。年代は、中世代白亜紀(7200 万年～7500 万年前)。地層の特徴: 激しい火山の活動によって噴出した流紋岩(りゅうもんがん)質の火山灰や火砕流(かさいりゅう)、溶岩が固まって出来た地層や火山岩である。火山灰が固まった凝灰岩(ぎょうかいがん)、周りの岩石をとりこんで固まった凝灰角レキ岩、火山から噴き出した岩石と高温のガスが一緒になって地表を高速で流れ出す火砕流が固まった溶結凝灰岩など色々な岩石で出来ている。マグマが地表で固まった溶岩は火山岩(流紋岩)と呼ばれ、地層とはいえない。丹生山地は火山岩で出来ているが、隆起したのはもっと新しい時代で火山とはいえない。当時、神戸付近だけでなく西日本全体が激しい火山活動があったことが分かっている。地表に噴出して固まったのが有馬層群であるが、マグマが地下でそのまま固まったのが六甲山地をつくっている花崗岩である(神戸の大地のなりたちと自然の歴史より)。

座頭谷 太多田川最大の支流、延長約 1.8km。昔、有馬に向かっていた座頭が有馬街道で分岐道を誤り荒地の谷に迷い込んで遭難したことから「座頭谷」といわれる。座頭谷には20を越す砂防堰堤がある。

蓬莱峡温泉跡 現在尼崎信用金庫保養所。昭和 15(1940)年～25(1950)年蓬莱峡温泉(冷泉・炭酸泉)があった。

しるべ岩 「しるべ岩バス停」を 20m 進んだところ、太多田川と座頭谷との分岐にある古い道標「みぎありま道」と刻まれている。岩の上にはしるべ岩と名付けられた由来を刻んだ碑がある。

蓬莱峡 花崗岩の破砕帯が風化浸食されて、大剣、小剣などむき出しになった花崗岩の奇岩がある景勝地。旧山口村長が朝鮮海金剛の景勝地蓬莱山に似るとして命名したという。

六甲砂防第 1 号 明治 25(1892)年の大水害を契機に水源涵養、改修、砂防堰堤などの工事が兵庫県良元砂防工営所を中心に砂防工事が進められ、昭和 13(1938)年の大水害でも無傷だったことから国営六甲砂防工事事務所が設立され引き継がれた。

鍍積堰堤 しるべ岩の砂防堰堤は「鍍積堰堤」で落水が直接目地に当たらない構造になっている

六甲みつばちハニー農場 六甲山麓の豊かな自然の中の山々の花、アカシア、マンサク、キブシ、ハギなど、その季節に自然に咲いて蜜を噴く植物の蜜を集めて生産されている養蜂場です。

船坂 有馬街道沿い。西宮市北部の山口町の南端、標高 300m～400mに位置し、世帯数220戸、人口767人(平成 18 年 10 月 1 日現在)の小さな集落である。太多田川が侵食してきた河岸段丘面に棚田が広範囲に広がっている

地名由来 船坂の地名の由来は、洪水で埋没していた有馬温泉を1191年に復興した仁西上人が、温泉の湯船をこの地で求めて以来「船坂」と呼ぶようになったという

地場産業 河岸段丘での畑作農業が盛んである。とりわけ標高が高く昼夜の温度差の大きい気候を利用した船坂のパセリの産地として有名である。このほか寒冷な気候を生かして、船坂川の兩岸を中心に寒天作りが盛んであった。明治18年頃から始まった船坂の寒天作りは昭和初期にピークを迎えたものの、残念ながら平成10年頃を最期に全工場が廃業した。

船坂小学校 西宮市で最も歴史のある小学校である。明治6年2月1日に善照寺本堂を仮校舎として開校した。平成 22 年 3 月、138 年の歴史の幕を閉じる。記念碑がある。

善照寺 室町時代に浄土宗寺院として創建されたが、蓮如上人が来錫の折、上人に帰依する者が多く、浄土真宗になったと伝えられる。本尊の阿弥陀如来立像は、その足が台座から少し浮いていると信じられていることから、別名「浮き足の如来さん」として親しまれている。

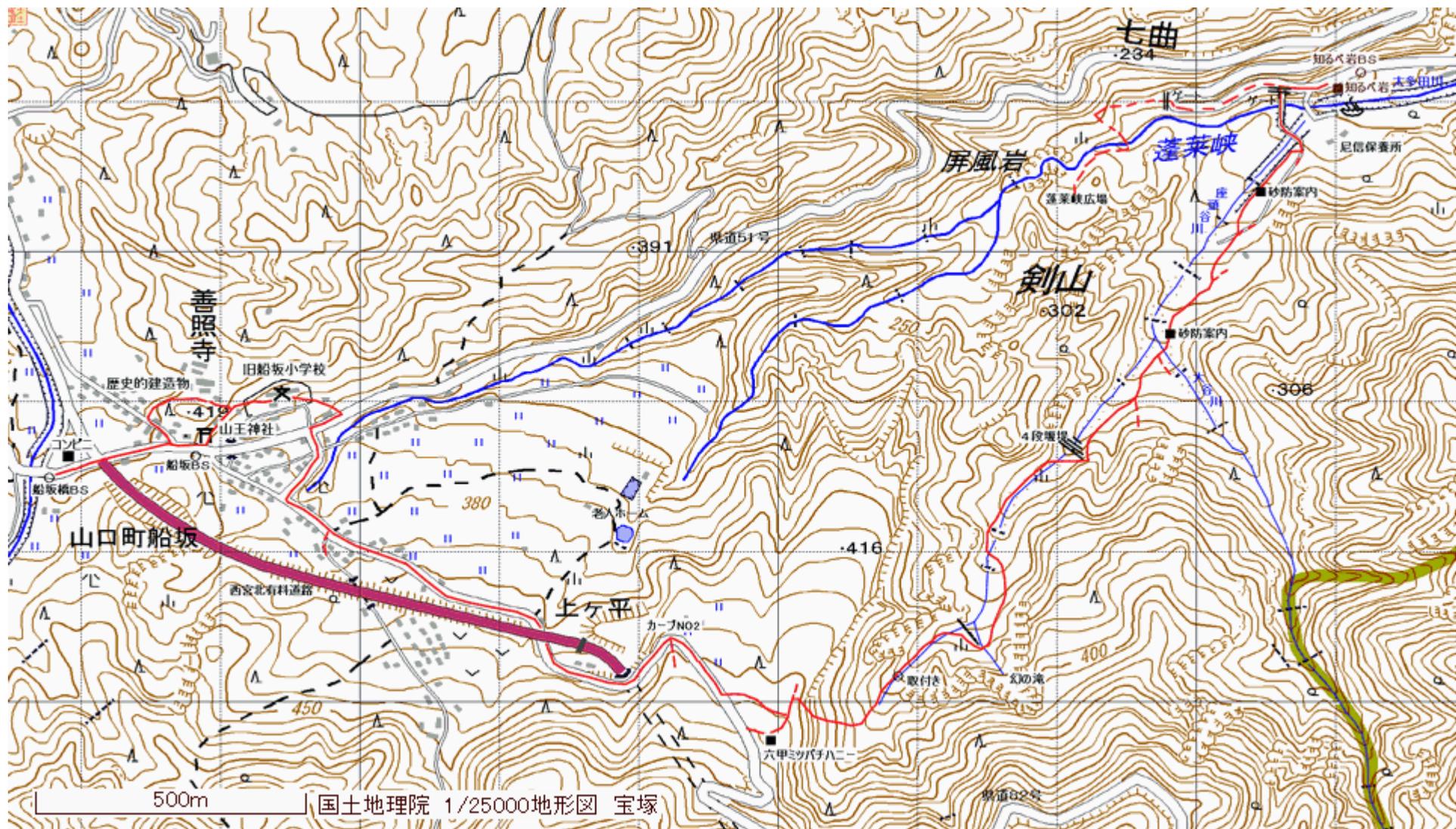
山王神社 いつ創建されたかは明らかでないが、文明年間(1469～87)以前とされている。播州三木城主・別所氏の祈願所だった。安土桃山時代、信長の中国攻めを担った豊臣秀吉は三木城攻略の兵を進め、山王神社は、その時の兵火で消失した。現在の神社は江戸時代に再建されたものである。

茅葺民家 山王神社の脇を北に抜ける小道(湯山街道)を挟んで昔ながらの集落が続いている。西宮市では数少ない藁葺き屋根の3軒の民家が残されている。伝統文化や日本の建築様式を学ぶ「学生育成の為の古民家再生プロジェクト」が修復に挑む。

西宮船坂ビエンナーレ 現代アートによる村おこし。内外のアーティストが小さな山里に集合。村中がアートになる、2年に一度の芸術祭、2012 秋開催予定。

(武庫川エコハイクおよび西宮山口風土記より抜粋)

行程图



船坂

